

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(8月20日～9月14日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。8月6日から8月17日までに23936件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは29件でした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

1. 検査結果の抜粋(8月20日～9月14日の間に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	419	0	—	栃木県	農産物	121	0	—
	畜産物	1413	0	—		畜産物	2836	0	—
	水産物	531	0	—		水産物	9	0	—
	牛乳乳児用食品	28	0	—		牛乳乳児用食品	6	0	—
	野生鳥獣肉	76	8	イノシシ,クマ,シカ		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	74	0	—		飲料水、その他	3	0	—
宮城県	農産物	125	0	—	群馬県	農産物	37	0	—
	畜産物	1869	0	—		畜産物	2243	0	—
	水産物	107	0	—		水産物	21	0	—
	牛乳乳児用食品	6	0	—		牛乳乳児用食品	9	0	—
	野生鳥獣肉	14	1	イノシシ		野生鳥獣肉	50	17	イノシシ,クマ,シカ
	飲料水、その他	1	0	—		飲料水、その他	11	0	—
茨城県	農産物	80	0	—	静岡県	農産物	10	3	野生きのこ
	畜産物	1716	0	—		畜産物	83	0	—
	水産物	48	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	6	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	4	0	—		飲料水、その他	1	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2018年 1月21日	99.5%	0.5%	0.0%
2018年 1月28日	99.4%	0.6%	0.0%
2018年 2月 4日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 2月12日	97.9%	2.1%	0.0%
2018年 2月18日	100%	0.0%	0.0%
2018年 2月25日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 3月 4日	99.3%	0.7%	0.0%
2018年 3月11日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 3月18日	98.6%	1.4%	0.0%
2018年 3月25日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 4月 1日	99.6%	0.4%	0.0%
2018年 4月 8日	98.5%	1.5%	0.0%

2018年 4月15日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 4月22日	99.2%	0.8%	0.0%
2018年 5月 6日	100%	0.0%	0.0%
2018年 5月13日	100%	0.0%	0.0%
2018年 5月20日	98.0%	2.0%	0.0%
2018年 5月27日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 6月 1日	100%	0.0%	0.0%
2018年 6月 8日	98.4%	1.6%	0.0%
2018年 6月15日	99.2%	0.8%	0.0%
2018年 6月22日	99.1%	0.9%	0.0%
2018年 6月29日	100%	0.0%	0.0%
2018年 7月 6日	100%	0.0%	0.0%
2018年 7月13日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 7月20日	100%	0.0%	0.0%
2018年 7月27日	100%	0.0%	0.0%
2018年 8月 3日	100%	0.0%	0.0%
2018年 8月17日	100%	0.0%	0.0%
2018年 9月14日	99.5%	0.5%	0.0%
2017年9月平均	99.5%	0.5%	0.0%

基準を超えた沿岸魚はみつきりませんでした。これで167週連続(約3年)となります。福島県の421検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介は2検体でした。

2検体はいわき市のキツネメバル(18 ベクレル/キログラム)ケンサキイカ(6.6 ベクレル/キログラム)でした。

(2)検査について基準を超えたものについて

①福島県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 福島県郡山市:イノシシ(240,120 ベクレル/キログラム)ツキノワグマ(240 ベクレル/キログラム)

イ. 福島県田村市:イノシシ(1100,810 ベクレル/キログラム)

ウ. 福島県須賀川市:イノシシ(630 ベクレル/キログラム)

エ. 福島県桑折町:イノシシ(240 ベクレル/キログラム)

オ. 福島県福島市:イノシシ(370 ベクレル/キログラム)

福島県で捕獲された野生鳥獣について、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

②宮城県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムを検出された旨、公表されました。

ア. 宮城県蔵王町:イノシシ(670 ベクレル/キログラム)

宮城県で捕獲された野生鳥獣については、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

③群馬県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 群馬県前橋市:イノシシ(130 ベクレル/キログラム)ツキノワグマ(110 ベクレル/キログラム)

イ. 群馬県草津町:イノシシ(270 ベクレル/キログラム)

ウ. 群馬県高山村:イノシシ(110 ベクレル/キログラム)

エ. 群馬県東吾妻町:イノシシ(290 ベクレル/キログラム)ツキノワグマ(510 ベクレル/キログラム)

オ. 群馬県沼田市:イノシシ(170 ベクレル/キログラム)

カ. 群馬県片品村:イノシシ(150 ベクレル/キログラム)

キ. 群馬県渋川市:ツキノワグマ(110 ベクレル/キログラム)

ケ. 群馬県高崎市:ツキノワグマ(250 ベクレル/キログラム)

コ. 群馬県中之条町:ツキノワグマ(140 ベクレル/キログラム)

サ. 群馬県長野原町:ツキノワグマ(200 ベクレル/キログラム)

シ. 群馬県川場村:イノシシ(250 ベクレル/キログラム)

ス. 群馬県昭和村:ニホンジカ(150 ベクレル/キログラム)ツキノワグマ(220 ベクレル/キログラム)

セ. 群馬県桐生市:ツキノワグマ(150 ベクレル/キログラム)

ソ. 群馬県みどり市:ツキノワグマ(400 ベクレル/キログラム)

群馬県で捕獲された野生鳥獣については、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

(3)京都の空間線量(8月20日～9月14日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.037～0.043 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.044～0.051 マイクロシーベルト/1時間と

なっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は 0.10～0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.13～0.14 マイクロシーベルト/1時間)となっています。

過去の平均は0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、1.5倍くらいの値となっています。

3. 関連情報

(1)福島県漁連、試験操業で漁獲したヒラメの出荷再開(2018/8/29 日本経済新聞より)

福島県漁業協同組合連合会は29日、中止していた福島県沖の試験操業で漁獲したヒラメの出荷を再開した。同県いわき市沖で捕ったヒラメから県漁連の自主基準を上回る放射性物質が検出され、7月下旬から出荷を自粛していた。

国の放射性物質の出荷制限基準値は1キログラム当たり100ベクレル以下だが、県漁連は試験操業で独自に1キログラム当たり50ベクレル以下の基準値を定めている。7月20日にいわき市の久之浜沖で取れたヒラメから同59ベクレルが検出され、出荷を自粛していた。

県の水産研究施設が8月下旬までに行ったモニタリング検査で、130を超える検体すべてで放射性セシウムが不検出だったことから、県漁連は28日にいわき市で県内の組合の責任者による会議を開き、29日からの再開を決めた。

県漁連の担当者は「出荷再開になり、ひとまず安心している。ヒラメを含め『常磐もの』と呼ばれる福島県沖で取れる魚介のおいしさや品質をさらにアピールしたい」と話している。

以上